

第8回「安心・活力・発展プラン2015」推進委員会 委員意見

日時：令和5年2月20日(月) 13:00～15:00

場所：レンブラントホテル大分 2階 二豊の間

No.	項目	発言の要旨
1	介護人材	<ul style="list-style-type: none"> 骨格予算としては、新たな社会課題に積極的に取り組み意欲的な内容だと思う。介護分野の人材不足について様々な施策を出してもらっている。例えば、外国人材を留学生として短大などで受け入れ、資格を取ってもらって県内で長く働いてもらう事業で人数を拡大していただいた。今後も予算を拡大していただき、外国人介護人材、ロボット等の活用に力を入れていただきたい。
2	人口減少	<ul style="list-style-type: none"> 2008年以降、人口は減少。特に自然減が顕著。自然減に対する手立ては時間もかかるし、なかなか難しい。社会増の効果があがっている市町村もあるが、自然減をカバーすることは事実上不可能なので自然減対策は避けて通れない。出会いの創出、結婚支援、出産・育児・教育など子育て支援などが必要であり、その前提として住居や安定的な収入源の確保が不可欠。 人口減少が本県の最大の課題であるため、今以上の予算を投じ、財政的・社会的支援を講じていかないと、大分県の未来はないのではないかと危惧する。
3	子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> 育児について、いくらイクボスや男性の育休促進などをやっても、子どもが発熱して帰らなければならない時、言いづらい職場もあると聞く。経営者には、県、日本全体で子育てに取り組んでいるという意識で、職場で仕事をカバーしてもらえればと思う。 小学校から始まる家庭科の授業をもっとしっかり行い、高校で男女問わず保育まで学んで、子どもを産み育てることの大切さや喜びを理解させることも大人の責任だと思う。
4	防災	<ul style="list-style-type: none"> 自主防災組織として地域の災害時要配慮者の家を訪問した際、現状の把握まではできたが、具体的にどのように家から避難させたらいいかまでは、自主防災組織だけでは非常に難しいと感じた。 県の避難させ隊の取り組みの際に、自主防災組織にも指導に入ってもらい、どのように避難させたらよいかアドバイスをもらいたい。
5	不登校対策	<ul style="list-style-type: none"> 今までも不登校児対策の話題が出ていたが、コロナ禍でさらに不登校が増え、県内で3千人を超える子どもが学校に行けていない状況。市町村が経営するフリースクールでも抱えきれない状況であることから、民間のフリースクールと連携すべきだが、民間に対しては経営支援がない。このため、家庭が自己負担することになるが、払えない場合には子どもを家に置いておくしかない。このような状況を改善するため、県には全国に先駆けて支援をしてもらいたい。
6	漁業振興環境対策	<ul style="list-style-type: none"> 養殖ブリ加工施設への予算に感謝している。 令和6年に全国豊かな海づくり大会が大分県で開催されるので、グリーンカーボン等に子供たちが関心を持ってもらえるよう、海に藻場を作るなどを教えていくことが大事。そのような取り組みを子どもに知ってもらおう事業を行ってほしい。
7	防災	<ul style="list-style-type: none"> 大分大学では避難所での健康危機管理プロジェクトをやっているが、アンケートでは避難所に行きたくないという声もある。避難所の整備について拡充をお願いしたい。避難所での健康をどう維持していくのかということについては、福祉保健部にも関係するので部局横断的に取り組んでもらいたい。

第8回「安心・活力・発展プラン2015」推進委員会 委員意見

日時：令和5年2月20日(月) 13:00～15:00

場所：レンブラントホテル大分 2階 二豊の間

No.	項目	発言の要旨
8	障がい者雇用	<p>・障がい者の就職が1名決まった。県のサポートを受けた事業で就職が決まって嬉しそうだった。当事業所にも2月からB型事業を卒業して一般就労としてマクドナルドに就職した人がいる。私が初めて知的障がいのある方、それもダウン症の方が、街の中で働いているのを見たのは、海外のマクドナルドだった。これまで県が、障害がある人が働きやすい環境づくりに力を入れてくれて確かな手ごたえを感じている。施設だけでなく街中で働くことの素晴らしさに気づいてきた。来年度も応援する予算が組まれているので、引き続き応援してもらいたい。</p>
9	留学生支援	<p>・外国出身からみると、留学生や技能実習生からの声として、給料が少ないため、長く働けないという声がある。給料を上げるのが難しいのであれば、大分の魅力を伝えることが重要となる。留学生の中には、大分を卒業して都会に行ったが、ピーマンを育てるプロジェクトに参加するために大分に戻ってきた人もいる。外国人に大分県ですっと暮らしたいと思ってもらえるような人情面も含めた支援が必要。</p> <p>・留学生の親の中には、子どもの留学先に関心がある方も多いため、親向けのPRもいいかもしれない。</p>
10	子育て支援	<p>・子育て満足度日本一について、医療関係者も含め関係者が一丸となって取り組んでいる。子育て支援は、他県に比べ先進的であることは間違いない。国は、異次元の子育て支援を進めようとしているが、教育にもしっかり投資してもらいたい。</p>
11	地域振興	<p>・3年にわたるコロナ禍により、地域の祭りは消滅の危機にある。2、3年祭りを開催していないため、このまま終わりにしてしまうかという問題が地域で起こっている。地域の祭りは、留学生や移住者から見たら、非常に魅力的な地方にしかないコンテンツである。危機の要因としては、人手不足が多い。</p> <p>・観光資源として活用でき、また古き良き文化を残していくという意味においても、振興局において、見逃してしまいそうな宝を掘り起こして、支援をしてもらいたい。</p>
12	産業振興	<p>・スペースポート推進事業について、イベント開催や人材育成も大事だが、次のステップとして、例えば、設計費・開発費・加工する為の治具費など、宇宙ビジネスを始めた会社、取り組んでいる会社への支援をお願いしたい。</p> <p>・また、JISQ9100取得のための支援もお願いしたい。宇宙関連の会社と話をすると、JISQ9100を持っている方が有利であり、取得の支援をお願いしたい。</p> <p>・半導体は活気がある。熊本県、鹿児島県との連携も必要となる。スピードが速い分野なので情報が重要となる。県が情報を集めて、県内中小企業に発信してほしい。</p> <p>・宇宙関連の展示会に行くことで得られる情報、特に他の出展者からの情報をしっかり提示して欲しい。実は、来場者よりも出展者同士の方がビジネスにつながりやすかったりする。</p>
13	DX推進	<p>・DX推進、先端技術の活用に133事業の記載があり意識の高さを感じた。様々な部局を横断して、DXが関係していることをしっかり押さえている。横連携は非常に重要なので、引き続き部局間連携を進めてほしい</p> <p>・DXの行き着くところはAI活用による自動化。そのためには県民の一人一人のID(マイナンバー)を把握することが、いずれは必要になる。マイナンバーをどのように活用するのが重要。</p> <p>・ひとつのDXの取り組みが、他の部局の取り組みに広がって、より効果的に取り組みを推進できるようお願いしたい。</p>

第8回「安心・活力・発展プラン2015」推進委員会 委員意見

日時：令和5年2月20日(月) 13:00～15:00

場所：レンブラントホテル大分 2階 二豊の間

No.	項目	発言の要旨
14	農業振興	<ul style="list-style-type: none"> ・この2年間に贈答品でいただいたカタログギフトでの牛肉のリストを調査した。具体的には、ハーモニック社、オーダーギフト社、リンベル社、高島屋の4社分。残念ながら、「おおいた和牛」は何処にも採用されていない。九州では、宮崎牛・鹿児島黒毛和牛がほぼ独占で佐賀牛が少し。まずは食べて知ってもらうことが重要で、カタログギフトに乗せていけば食べてもらうチャンスはあるはず。県やJAでカタログギフト事業者に交渉していただきたい。
15	農業振興	<ul style="list-style-type: none"> ・ベリーツを今年度初めて試作した。振興局の担当職員の方に手厚く指導頂き、しっかり管理をして栽培したベリーツはとても美味しく、感動した。大分県が何年も掛けて育種したことがきちんと実を結ぶよう、しっかり栽培管理を徹底し、味の均一化を図るべき。 ・農業次世代人材投資事業について、親の所得制限を設けるのは非常に残念である。どんな環境であっても農業を目指す若者に支援いただきたく、所得制限を撤廃してもらいたい。
16	観光振興	<ul style="list-style-type: none"> ・オーバーユース対策のための周遊バスの運行実証などに取り組んでいただけることに期待している。 ・日本百名山ブームに続いて、今は「低山」ブームが急速に広がっている。その対象者は、公共交通機関やタクシーなどによるアクセスの利便性やロープウェイ・リフトなどの乗り物を使い継いで、高齢になっても「登山」と下山後の「温泉」や「食事(お酒)」の3つを楽しむことができる山や高原などを求めている。また、冬季にも楽しもうという流れが起きており、冬季でも目的地までアクセスしやすい道路環境や冬季運行のバスなどが用意されると安全と利便性が高まると考える。 ・アウトドアガイド育成に力を入れているが、ホテルとの連携等により、活躍できる場をつくることを願いたい。
17	スポーツ振興	<ul style="list-style-type: none"> ・大分のスポーツを盛り上げるにはラグビーに力を入れるべき。ラグビーをどのように盛り上げるのかをしっかりと県で考えてほしい。教育の場を通じて広まっていければよいと思う。 ・祭りに関して、3年も経つとしなくてもいいなという声が聞かれる。伝統や文化、経済をコロナ前に戻していくべきだと考えており、皆で取り戻すべく、言葉にして、県全体で取り組みを推進していただきたいと考えている。
18	産業振興 観光振興	<ul style="list-style-type: none"> ・脱炭素や原油価格の高騰で、石油業界に対する視線は厳しい。組合員や会社は半分ほどに減少。事業承継補助金は、設備投資にも使うことができ、非常に助かるが、残していくことにも支援をいただければと思う。 ・韓国の商談会が開催されて一緒にソウルに行き、以前は日韓の関係悪化で消極的な面もあったが、今回は充実した商談会になった。今後もこのような機会をいただきたい。 ・DCとの連携、数ルートの中で観光施設連絡協議会の会社が数社しか上がっていませんでしたので既存の会社も使っていただければと思う。 ・ラグビーのオリンピックチームの合宿期間中に子供向けのイベントもあったが、非常にいい機会であった。これからも合宿の誘致に尽力してもらえれば。

第8回「安心・活力・発展プラン2015」推進委員会 委員意見

日時：令和5年2月20日(月) 13:00～15:00

場所：レンブラントホテル大分 2階 二豊の間

No.	項目	発言の要旨
19	観光振興	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間観光産業が大変な思いをしたが、行政の施策のおかげで、なんとか存続できている。 ・福岡と韓国間は1日27便が離発着しているが、ほぼ満席状態。そんな中、別府と由布院は100%コースに入っているが、宿泊先には入っていない。いかに宿泊させるか、連泊させるのが大事。 ・今後、欧米のクルーズ船（イギリス、ドイツ）が来ると聞いている。語学力が重要になるので多言語化とデータ化、そしてインバウンド向けのガイドの育成が大事。 ・今後はインバウンドが非常に重要。どのように持続的につなぎとめるか。また、APUの観光学部と連携が重要。県民と留学生の交流を企画し、大分県のことを忘れないでいただけるような政策が重要
20	インバウンド	<ul style="list-style-type: none"> ・インバウンドについて、10月11日の水際対策緩和以降、列車やバスに乗りきれないほどの観光客が湯布院に来ており、オーバーツーリズムの話がまた出ている。これをオーバーツーリズムとしてしまうのではなく、宿泊も含めて地域全体、そして大分県全体につなげていく戦略を進めていく必要がある。オーバーツーリズムとならない新たな旅のあり方を考えていかなければならない。 ・また、お客様だけでなく、観光で働いている人たちに選んでもらわないといけない。働きやすい職場、地域であることが重要。業界だけでなく、地域で取り組むことが必要。住んでよし、訪れてよし、働いてよし、ということに取り組むことが大事だと考えている。
21	賃上げ 観光振興	<ul style="list-style-type: none"> ・最低賃金に関して、大分県は全国最下位を脱出できたものの、絶対値で見るとまだまだの状況。賃金が上がらないのは、適正な価格転嫁がされていないことが原因と考えているが、官民による適正な価格転嫁に向けた政策協定を、全国2番目に締結いただくなど、県でしっかりと対応いただいているという認識。 ・インバウンドに関して、ラグビーワールドカップを機会として欧米の観光客を見かけるようになった。引き続き、欧米向けの情報発信も推進いただきたい。
22	食品表示	<ul style="list-style-type: none"> ・飲料、化粧品等の商品パッケージデザインの際、食品表示や成分表示をつけるが、この表示基準が年々厳しくなっているとされている。しかし、どこへ問い合わせしたら良いかわからないため、確認先について、明示いただければと思う。
23	農業振興 観光振興	<ul style="list-style-type: none"> ・ねぎの100億円プロジェクトを進めていただけており、様々な支援を受けている。収支が合うよう、引き続き支援をお願いしたい。 ・観光地（湯布院、別府）の駐車場が問題になっている。車を停めるのに待ち時間が30～40分かかることがある。県主導の下で、観光地の近隣に大規模な駐車場を確保したり、交通整理員を配置するなど交通渋滞の問題を解決することが観光発展のために必要ではないか。
24	環境対策	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの企業が脱炭素の取り組みを進めている。それに比べ生物多様性の保全は自分事として捉えにくいのではないかと感じている。国内でもネイチャーポジティブというものが主流になっていくと感じる。地域特性を守っていくことが重要。COP15で2030年までに陸と海の30%以上をそれぞれ保護域にする「30by30」が国際目標として採択された。この取り組みに多くの団体や自治体が参加しており大分県も参加している。この取り組みがさらに盛り上がり、今後、環境を保全する推進体制が県戦略でも記載されると良い。

第8回「安心・活力・発展プラン2015」推進委員会 委員意見

日時：令和5年2月20日(月) 13:00～15:00

場所：レンブラントホテル大分 2階 二豊の間

No.	項目	発言の要旨
25	農業振興	<ul style="list-style-type: none"> ・スマート林業に関し、ドローンの資格が必要不可欠。資格を取るのは高額なので、林業研修所等で講師を招いていただいて、多くの人に研修をしてもらえるような取り組みを実施して欲しい。 ・林業でも最近、高性能機械が入ってきている。海外の機械は生産した数量がそのままデータで読み込め、その数量が川下に流れるようになれば、集荷する材木の数量が前もって分かるため、集荷する労力がなくなる。その機能が機械についているのだが、まだ活用されていないのが現状。その活用の取り組みを県内でいち早くして欲しい。 ・伐採後に植栽した際、鹿対策のネット設置等をしているが、豪雨災害等により防護ネットが倒れたりしている。設置する場合は助成金をいただけるが、鹿ネットの点検に対する支援はないため、この部分についても支援をいただけるとありがたい。
26	教育	<ul style="list-style-type: none"> ・ITなど人手不足の中でどのような戦略を持つかが大事。人がどこまでやるのか、ICT等を活用し、どのように生産性を上げていくのかを考える必要がある。先端技術を活用した教育の在り方や農業など、パイロット事業としてやってみてもよいのではないか。
27	D X推進	<ul style="list-style-type: none"> ・D Xの推進は土木や教育などの分野で成果が出ていると感じている。また、介護の分野でも成果があがっていると感じており、今後も引き続き、先端技術の活用を推進していただきたい。
28	産業振興	<ul style="list-style-type: none"> ・脱炭素に関し、県の取り組みには賛同している。楽観できない事業環境が続いているが、カーボンニュートラルレポートは重要で、県と企業の連携が必要。カーボンニュートラルは技術的にハードルが非常に高いが、地元で雇用を続けていくには最低限やらなければならない取り組み。強力に進めていくには大分県の旗振りが必要。例えば、ロードマップを作成して進めて具体化していくなどしてもらいたい。これが県内で操業する企業の魅力発信、持続的な事業計画や安定的な雇用の確保にもつながる。
29	教育 交通	<ul style="list-style-type: none"> ・第三者評価として津久見高校を訪問したが、半年で先生や生徒がタブレットを使いこなせるようになっていた。グッドプラクティスの表彰制度を導入することにより、先生の自信に繋がるのではと思う。 ・ICT活用に関して、首都圏の大学の定員抑制をこれまで進めてきていたが、デジタル人材については、定員抑制を緩めるという動きが出てきている。首都圏に人材が流れないように、大学側で地元の魅力を磨く取り組みを進めていくので、プラットフォームを通じ、引き続き支援いただきたい。 ・交通に関して、地域の移動手段の確保にAIや先端技術を活用する場合、公共交通だけでなく、医療福祉環境など、トータルで課題解決することが必要。部局連携で引き続き支援をいただきたい。 ・またMaaSの取り組みを推進していただいているが、まだまだ知名度がないため、しっかり情報発信を進めていただきたい。